

質問
50代の男性です。肺がんを患い、治療中です。抗がん剤による皮膚や爪の副作用に困っています。副作用はなぜ起こるのですか。何か良い対策はありますか。

抗がん薬による皮膚への副作用



広瀬 憲志
県立中央病院
皮膚科部長

回答
近年、がんの薬物療法の進歩は目覚ましく、より高い治療効果、より長い寛解期間を得られる薬剤が多数出てきています。同時に、抗がん剤による皮膚への副作用も少なからずあり、生活の質を落とさないようにする工夫や対策も必要になってきています。日常生活で気を付けるポイントやスキンケアなどについてお話ししたいと思います。

抗がん剤にはいくつかのタイプがあります。①(従来の)細胞障害性抗がん剤②分子標的型抗がん剤③免疫チェックポイント阻害薬④ホルモン療法薬などがあります。

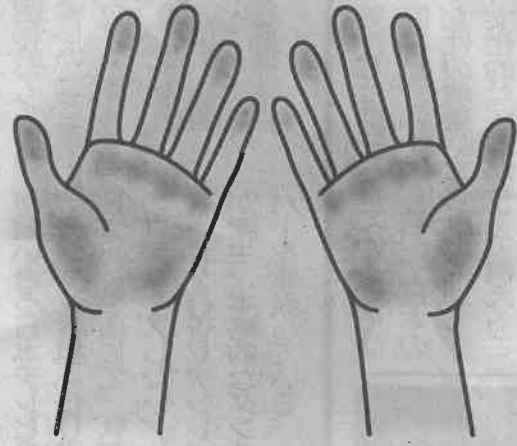
①細胞障害性抗がん剤は、細胞分裂の起こる所に作用します。分裂の多い皮膚や爪にダメージが出る場合が多いです。具体的には紅斑などの発疹や皮膚の乾燥、色素沈着

日頃からスキンケアを



爪の変化などです。②分子標的型抗がん剤は、がん細胞にある特殊な物質をピンポイントで抑えます。皮膚に同じような物質が存在すれば、そこも標的となってしまう、にきびのような発疹や爪のまわりの炎症、手足症候群(手のひらや足の裏の痛みを伴う紅斑や水ぶくれ)、乾燥が起ります。

③免疫チェックポイント阻害薬は、患者に元々備わる免疫の力を利用してがん細胞を排除しようとする薬です。しかし、免疫が過剰となって正常細胞も攻撃を受けてしまい、かゆみを伴う紅斑やぶつぶつ、色素が抜ける白髪、白斑などが生じる場合があります。④ホルモン療法薬は、ホルモン依存性のがんに投与され、がん細胞の増殖を抑えます。発疹が出る頻度の高い薬もあります。皮膚では命に関わるよ



強い炎症にはステロイド

強い炎症にはステロイド(場合によっては内服)を行います。手足や爪は刺激しないように柔らかい素材の手袋や厚手の靴下、靴(クッション剤の使用など)の着用も大事で、長時間の歩行や作業、食器洗いを控えることも大切です。特に爪はテーピングやマニキュアも有効です。そして、皮膚障害によって大切ながんの治療が中断されないようにすることが肝要です。皮膚に症状のある場合は主治医や皮膚科に相談してください。一緒に頑張りましょう。

がん何でもクイズ
がん治療前に妊娠する力を温存する治療は何ですか。
①妊孕(にんよう)性温存療法②不妊治療③理学療法
行こうよ!がん検診

がんに関する質問は
徳島がん対策センター
電話 088 (634) 6442
(平日午前8時半から午後5時まで)へ。